

# イデックスオイルレポート ~For a month~

2023年4月4日作成 (株) 新出光

## 【月次概況】

●第1週、週末3/3のWTI原油は、先週比3.36ドル高の79.68ドルとなりました。米紙ウォール・ストリート・ジャーナル（電子版）は3日、内戦が続くイエメン情勢への対応などを巡り、サウジアラビアとの対立が深まっているUAEが、OPECからの脱退を検討していると報道。有力産油国のUAEが脱退すれば、単独で増産に踏み切るとの観測が広がったため、相場は一時75ドル後半に大幅に下落した。ただ、その後ロイター通信が、「真実とは程遠い」との関係筋の反応を伝えると急速に買い戻された。ま

●第2週、週末3/10のWTI原油は、先週比3.00ドル安の76.68ドルとなりました。米労働省が発表した2月の雇用統計によると、非農業部門の就業者数は前月から31万1000人増加し市場予想を大きく上回った一方で、失業率は悪化。また、平均時給の伸びは0.2%増と、市場予想を小幅に下回った。石油輸出機構（OPEC）加盟国であるサウジアラビアとイランはこの日、外交関係の修復で合意したと、両国の国営メディアが報じた。中国などの仲介で関係修復に向けた協議を続け、双方とも2カ月以内に大使館を再開させる方針が決まった。

●第3週、週末3/17のWTI原油は、先週比9.94ドル安の66.74ドルとなりました。経営破綻した米中堅銀行シリコンバレー銀行（SVB）の親会社、SVBファイナンシャル・グループはこの日、連邦破産法11条（日本の民事再生法に相当）の適用を申請したと発表した。これをきっかけに、幾分後退していた金融不安が再燃。投資家のリスク回避の動きが強まり、株式と並びリスク資産とされる原油は売りにさらされ、一時65ドル台まで下落した。

●第4週、週末3/24のWTI原油は、先週比2.52ドル高の69.26ドルとなりました。米ブルームバーグ通信は23日、ロシアの新興財閥（オリガルヒ）が経済制裁を逃れる手助けをした可能性があることから、米司法省がスイス金融大手のクレディ・スイスとUBSを調査していると報じた。両銘柄が売られると、ドイツ銀行など欧州主要銀行の経営を巡る懸念も台頭。一部の銘柄が急落し、投資家のリスク警戒感が強まった。また外国為替市場ではドルが対ユーロで上昇し、ドル建てで取引される原油の割高感が意識された。グランホルム米エネルギー省長官が23日、戦略石油備蓄（SPR）の補充に数年かかる可能性があると言及し、需給逼迫（ひっばく）懸念が後退したことも、引き続き相場を圧迫した。

●第5週、週末3/31のWTI原油は、先週比6.41ドル安の75.67ドルとなりました。インフレ関連指標の鈍化を受けて米連邦準備制度理事会（FRB）による早期の利上げ停止観測が改めて台頭し、需要拡大につながるとの期待感につながった。イラクのクルド自治区内にある油田からトルコを経由するパイプラインが依然として稼働を停止したことに加え、複数の油田が生産量を削減していると伝わったことも相場の下支えとなった。

	3月平均	WTI原油	73.37ドル	前月比	▲3.49	為替 1ドル	134.92円	前月差	1.17円
--	------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
3/1~3/1	18.7	+1.5	+1.5
3/2~3/8	17.0	-2.0	-2.0
3/9~3/15	18.1	+2.0	+2.0
3/16~3/22	17.1	-0.5	-0.5
3/23~3/29	9.5	-6.0	-6.0
3/30~3/31	8.1	-2.5	-2.5

【単位：円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS L S船用燃料油基準価格	
	2022年10-12月C重油決定価格	103,180	110,790	【103,180(メニュー) +7,610(プレミアム)】
2023年1-3月C重油決定価格	84,240	91,510	【84,240(メニュー) +7,270(プレミアム)】	
2023年1-3月C重油決定価格	86,610	91,550	【86,610(メニュー) 4,940+(プレミアム)】	
決定価格10-12月比	-16,570	-16,570		

【単位：円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	2022年10-12月C重油決定価格	115,700
2023年1-3月C重油決定価格	96,410	
2023年1-3月C重油決定価格	96,500	
決定価格10-12月比	-19,200	

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/k l	ドル/b b l	円/ドル	前月比
	23/2	9桁速報	71,915	87.71	130.35	-1,319
	23/3	最終予測	73,112	85.87	135.37	1,197
	23/4	展望	69,239	84.67	130.00	-3,873
	23/5	展望	66,771	84.92	125.00	-2,468

## 【次世代エネルギー】〈EU、土壇場のエンジン車容認 無理筋はEVか合成燃料か〉

欧州連合（EU）は2035年に内燃機関（エンジン）車の新車販売を禁止する方針だったが、3月28日のエネルギー相理事会で合成燃料を利用するクルマに限り販売を認めることで合意した。合成燃料はe-Fuelとも呼ばれ、二酸化炭素（CO2）と水素で作り、CO2排出量は実質ゼロと見なされる。

主役はEUの執行機関である欧州委員会とドイツ政府だ。エンジン車の新車販売を禁止することについては、欧州委員会が強力に推進してきた。EU理事会や欧州議会も暫定合意するなど法案成立に向けて進んできたが、最終段階でドイツ政府が強力に反対し、欧州委員会が押し切られた格好だ。環境担当として欧州の自動車規制も統括する欧州委員会のティメルマンズ上級副委員長は25日にツイッターで「我々はe-Fuelの将来的な利用について、ドイツと合意を見いだした」と述べた。EUは世界の中でも厳しい環境規制を導入しており、その内容は世界各国の規制動向にも影響を及ぼす。今回の合成燃料の認可は世界の自動車関係者の大きな話題となっている。日本勢が得意なハイブリッド車（HV）について販売禁止になる可能性があったため、日本での関心も高い。

## 【4月価格変動要因】

●需要：シリコンバレーバンクを発端とする金融不安は、当局の迅速な対応もあり一旦沈静化、一方で、商業用不動産の資金繰りやクレジット市場の悪化など、信用収縮に繋がりがねない火種が残されており、燃料需要にとってはネガティブな材料が多く、原油価格下押しの要因。

●供給：OPEC閣僚級会合にて日量116万バレルの追加減産を行うと発表。Brent75ドル付近は供給国サイドの動きにより価格が下支えされることを印象付けたことで、同水準は下値目途として今後意識されやすくなる。トルコとイラクを結ぶ原油パイプラインが停止、単体の供給障害の規模としては大きくないものの、OPECの減産と合わさると200万バレル近い供給不足となり、需給を歪める材料となりうる。

●在庫：米国がメンテナンスシーズン入りしていたこともあり、原油在庫は相応に積み上がり、余剰が顕著。ドライブシーズンにかけては取り崩しが進むものと見られるが、中東・露産原油が減産となったことで米国産原油の需要も増加する見込。今後の取り崩しのペースが予想以上に早ければ原油価格上昇の要因となりうる。

●リスク資産：金融不安が一旦後退し米株式を中心とするリスクアセットは堅調な推移を続けている。一方、クレジット市場は引き続きタイトで、かつ商業用不動産や米債務上限問題など、問題は山積。

<4月価格見通し> (単位：US/b b l)

	Brent	WTI
High	93	89
Average	83	79
Low	75	71

日付	国	4月経済指標カレンダー	日付	国	4月経済指標カレンダー
3	米	3月ISM製造業景況指数	14	米	3月小売売上高
3	米	3月ISM製造業景況指数	19	欧	3月消費者物価指数
5	米	3月ADP雇用統計	25	米	3月新築住宅販売件数
5	米	3月ISM非製造業景況指数(総合)	27	米	1-3月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
7	米	3月平均時給	28	欧	1-3月期四半期域内総生産(GDP、速報値)
7	米	3月失業率	28	米	3月個人消費支出
7	米	3月非農業部門雇用者数変化	28	米	1-3月期四半期雇用コスト指数
7	米	3月平均時給			
12	米	3月消費者物価指数(CPI)			
12	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨			